

RK・PRK news

発行：近視手術友の会
〒142-0062 東京都品川区小川2-17-14-102 FAX:03(5486)0120

Vol.25
2012年6月

がんばろう日本と近視手術費用

奥ノ山医院(旧参宮橋アイクリニック) 院長 奥山 公道



大震災が起き、早くも1年が経過しました。2011年3月当院は安定ヨウ素剤を海外より入手し、成長期の子供を始めとする希望者に無料配布しました。2011年4月11日読売新聞朝刊は「日本政府が米国にヨウ素剤提供依頼」と伝えました。

私のかつての留学先であった旧ソ連チェルノブイリ原発事故の場合、ベラルーシーやウクライナでは、事故後早期に国の責任で安定ヨウ素剤を配布しました。安定ヨウ素剤は、福島原発事故で漏れ出た放射性ヨードによる小児の甲状腺がん予防のため必要で、4号炉の使用済核燃料プールが崩壊していれば、半径250キロ圏内まで避難地域に指定せざるを得ない最悪のシナリオもあり得ました。

その頃、都内K眼科のホームページで、「津波で眼鏡やコンタクトレンズを流されてしまった被災地へ、メガネを送呈しようキャンペーン」の告示があり、共感しました。眼鏡やコンタクトレンズを失い、逃げまどう近視の人々を想定した災害対策とは何かについて、たくましい想像力は必要ないと思います。近い将来、直下型地震が起こる可能性が取りざたされております。

重要課題として、眼鏡やコンタクトレンズを失っても避難を可能にする裸眼視力の提供が、国の施策として求められます。具体案として、近視手術に健康保険の適応や、強度、最強度の近視手術の国による補助が考えられます。近視手術に、健康保険の適応が100%は難しくても、せめてコンタクトレンズ処方に伴う内容の診察と同様に、手術前後の検査に保険の適応が求められます。日本眼科学会や日本眼科医会のイニシアチブに期待し、具体的な施策が望まれるところです。当院としては災害対策上、近視手術をお考えの方の手術費用についてご相談に乗りたいと思います。

目次 contents

がんばろう日本と近視手術費用…1
学会参加報告…2
ドクター奥山旅行記…3

近視手術の体験談…4
老眼手術体験談…7
再手術について…8



学会(ESCRS)参加報告

第29回ヨーロッパ白内障・屈折手術



■ヨーロッパ白内障・屈折矯正学会 会場前にて

再手術で効果を発揮する フラップレス・レーシックの 魅力について発表しました。

2011年9月17日～21日の第28回欧州白内障及び屈折手術学会に参加してきました。

奥山山医院(旧参宮橋アイクリニック)としての発表は、「ケラトミリョージス+PRK手術のコンビネーションについて」という演題でした。

ケラトミリョージスは、初期に行っていたメスを使用する近視手術のことです。

角膜が薄くなっているため、再手術の際は、フタを作るレーシックでは不可能です。十分な結果が得られなかったり、長期経過において近視の戻りがあった場合、PRKならさらに追加することができるのです。PRKを選択し、安全性に留意し、良好な結果を得た症例報告をしました。

近視の戻りについて2008年のスペインのJ.アリオ博士がレーシック、PRKに問わず術後10年の経過で約1Dの近視化を報告しました。再手術の要件としては照射対象の角膜床が250マイクロ以下にならないように規定しています。レーシックは約500マイクロの角膜に160マイクロのカットを加え、残りが340マイクロになるので強度近視では再手術の可能性が失われます。

私は学会場でレーシック・ドクターに質問しました。「いつまでレーシックを行うのですか？医原性の角膜拡張症という後遺症を皆さんは恐れていないのですか？」

すると質問を受けた米国の医師の一人が「つい先月2011年8月、米国FDAIによって、角膜拡張症の対策であるクロスリンクング法が認可されたというホットニュースを教えてくださいました。クロスリンクングとは、レーシックで角膜に水平カットを入れて弱くなった構造をビタミンB2と紫外線照射により、細胞間の結びつきを強化する方法です。



■学会にてフィドロフ研究所サント市分院院長パラシェービッチ博士と共に

ドクター奥山旅行記

ザルツブルグ 湖沼地帯

学会参加後はザルツブルグ湖沼地帯へ向かいました。久々に家族と一緒に海外旅行でした。ウィーン国際空港のハーツレンタカー店で、メルセデスのワンボックスカーを借り、高速道路を4時間走りました。道路はオートバーンの一部で広い道幅の割に、走行する車の数が少なく快適でした。



■モンゼー山頂湖を背景に

最低制限速度の表示が120キロのところ、100キロで走行していたところ、煽られるやら、クラクションを鳴らされるやら焦りました。高速道路の脇には所々に売店を併設したレストランが並び、自然とトイレ休憩の頻度が増しました。地産地消的な地元キノコや木の実、乳製品が売られて、特にカシス、クランベリーやラズベリーの新鮮さに驚きました。



■ザルツブルグ城にて

道路料金の徴収は日本に比べると大雑把でした。高速道路にあるガソリンスタンドでチケットを買い、車のフロントガラスにシール状に貼っておくだけ。3日券で5ユーロ、7日券でせいぜい10ユーロ程度。5日間で一度もチェックに会うこともありませんでした。チェックと言えば、白バイの姿もありません。ネズミ捕りの現場を2、3回目撃しましたが、基本的にはスピードメーター付きの写真判定器が撮影した資料に基づいて、罰金の請求書が送付されます。隣国ハンガリーでは、不払いを防ぐため公共料金の請求書とドッキングされて送付されます。違反金を支払わなければ電気や水道といった公共料金が止まります。

ウィーン子には「日本では、白バイ隊員、高速料金所の職員をはじめ、様々な公務員や準公務員がいるのですね」と驚かれました。私は「失業対策ではないのです」と説明し、続けて「独立行政法人という組織もあり、お役所の仕事を補完、または肩代わりをするために退職した高級官僚を中心とする事務職員が働き、そのための特別会計予算がおおよそ174兆円組まれているのです。それ以外に国

の一般会計予算が90兆円生まれ、その中に過去の国債返済利子45兆円以上が含まれているのです」と解説しました。すると、ウィーン子の反応は辛口コメントが飛び出しました。「独立行政法人を含む日本の公務員数はギリシャ並みですね。しかも日本は世界一ワイロの存在が薄い国と聞いていたけれど、ワイロが合法的にもらえる国なのですね」と。ウィーン国民は政治経済に関心が高く、しかも実利的で東西冷戦のさなかケネディとフルシチョフの会談をシェンブルン宮殿で成功させただけのことがあります。

車は右手にメルクという古い修道院の見える街を過ぎ去り、さらに速度を上げました。メルクの名前は、製薬会社を連想させます。ザルツブルグの手前の約40分間、進行方向左側に始まった、モンゼー、ウルフガングゼー等々、次から次へと湖のオンパレードでした。残念なことに所々ガードレールが邪魔になり湖は欠けますが、規模の大きさに度肝を抜きました。湖は、“○○ゼー”と表示されます。小さな池や沼はタイヒと呼ばれる。ハンガリー、オーストリーの様に海のない国の湖への思いが知れます。



■モンゼー山頂を目指すSL機関車と孫

近視手術の体験談



朝から時計の針が ハッキリ見えて感動！

船瀬 悠喜さん（女性・オペ時22歳）

- オペ日 右・左2011年6月17日
- オペ後の視力 右0.05→1.5 左0.1→1.5

私が奥ノ山医院で近視手術を受けたのは、2011年の夏休み、留学先のアメリカから日本に一時帰国していた際でした。父の友人であり、父の近視手術を受け持っていたいた奥山先生の話は、以前から耳にしていたのですが、ちょうど一年くらい前に、父から近視手術を受けることを勧められました。

私の視力が落ち始めたのは、中学生の時でした。授業中、黒板の文字がはっきり見えなくなり、視力検査の結果から、授業中は眼鏡をして授業を受けていました。そして、バスケットボール部に所属していたのですが、試合中に相手チームの背番号が見えづらくなり、コンタクトレンズをするようになったのは、中学3年生の時でした。ちょうど高校受験も重なり、視力が少しずつ落ちていったのを覚えています。

それから約8年間は、コンタクトレンズを使用していたのですが、留学先のカリフォルニアは日本に比べて乾燥している為に、目薬が必需品でした。何より裸眼の人と比べると、コストの面でも負担が大きいことも不便さをとても感じていました。

手術を受けることに関して知識不足だったために不安もありましたが、初診検査の際に奥山先生から丁寧に説明をいただき、手術を受ける気持ちが固まりました。10年以上コンタクトレンズを使用すると、ドライアイの恐れや、目への負担が大きくなることを踏まえると、今後は裸眼で過ごせることが素晴らしく感じられました。

手術後、少しずつ視力が回復していき、朝目が覚めた時に、時計の針がはっきり見えることに感動しました。目の乾きや疲れも軽減し、今まで以上に毎日が充実しています。近視手術を受けることを迷っている方がいましたら、是非とも勧めたいと思います。少しでも多くの方にこの喜びを感じていただけたらと思います。

■ 院長奥山が20年前にRK手術を受けられた環境評論家船瀬俊氏のお嬢様が、フラップレス・レーシックで(ブロードビームPRK)を受けました。米国でもレーシックは花盛りですが、より安全な近視手術ということで一時帰国して私の手術を受けてくださいました。術後、左、右ともに1.5と1.5で経過は良好です。



体重計の液晶もハッキリ見えて感動しました！

Y.Nさん（男性・福岡県・オペ時40歳）

■オペ日 2011年5月27日 ■オペ後の視力 右0.1→1.5 左0.05→0.7

私はメガネ歴25年以上でしたが、フラップレス・レーシックを受けて良かったと感謝しています。インターネットでクリニックのサイトを見つけたのが奥ノ山医院との出会いでした。そこには、施術される奥山先生ご自身やご家族も視力矯正手術を受けていらっしゃることを併用していました。今はメガネを持ち歩くこともなく、裸眼で快適に読書やパソコンなどの近くを見たり、テレビを見たり、車を運転しながら遠くを見たりしています。夜間などの暗い場所での見え方も良好です。体重計に乗った時も、以前は液晶の数値が裸眼だとぼやけて見えない状態でしたが、今ははっきり見えます。今回の視力矯正手術の結果には数値にはない安心感があります。

奥山先生が親切に説明されるその中には、手術を受ける人の将来と「現代人の日常生活」を見据えた上で、視力矯正を追求されるお姿がありました。素朴な医院の様子もあわせて、私は奥ノ山医院のファンになり手術を受けることにしました。

初めての体験の緊張感のなか、レーザー照射は終了しました。手術後の視力が安定しない期間は、3~4週間程ありましたが、眼にレーザーで影響を与えるのですから、一生のうちの少しの時間が必要でした。手術を受ける前は、私はメガネを使い捨てコンタクトを併用していました。今はメガネを持ち歩くこともなく、裸眼で快適に読書やパソコンなどの近くを見たり、テレビを見たり、車を運転しながら遠くを見たりしています。夜間などの暗い場所での見え方も良好です。体重計に乗った時も、以前は液晶の数値が裸眼だとぼやけて見えない状態でしたが、今ははっきり見えます。今回の視力矯正手術の結果には数値にはない安心感があります。

奥山先生、スタッフのみなさま、素敵な治療をありがとうございました。

■院長奥山が遠方九州から距離を厭わず、レーザー近視手術の原理を動画で理解し上京してくださったドクターです。フラップレス・レーシックの安全性に期待を持たれたとのことでした。結果は右1.5、左0.7と老眼対策を含めて施術いたしました。



片眼手術で、翌日も仕事を休まず過ごせました。

K.Nさん（男性・東京都・オペ時55歳）

■オペ日 2011年3月26日 ■オペ後の視力 左0.04→1.0

私は息子とフラップレス・レーシックを受けました。私は、以前は眼鏡をかけていましたが、冷凍庫のように寒い所から急に暖かい所に移動すると眼鏡が曇り、大変不便に感じていました。すぐに拭いても、また少し経つと元に戻ってしまいます。何度も眼鏡を拭かなければならないのがどうしても面倒を受けるところになりました。

仕事は休むわけにはいかなかったので、片眼ずつ手術しました。手術は光を見つめているだけであっという間に終わり、5分も掛からなかったと思います。

手術した夜は痛みを感じましたが、処方された目薬で和らぎました。手術の翌日は、少しきつかったのですが仕事はできました。2日~3日すれば痛みもすっかりなくなりました。（息子は両眼を同時に手術した夜は目が開けられなかったようです。）

仕事が休めない方は片眼ずつ、少し時間の取れる方は両眼を手術するのが良いかもしれませんが、今、術後1カ月程ですが、奥山先生からの術前の説明通り、遠くはハッキリと見えます。多少まだ手元がぼやけますが、今は近くを右目で遠くを左目で見るようにしています。今のままでも家では眼鏡なしでテレビも見られ、食事でもでき、何も問題ないのでもう少し様子を見てから右目を手術しようかなと考えています。私はもう55歳という年齢になってしまいましたが、フラップレスは息子のような若い世代の方にこそ、よりお薦めしたいですね。

■院長奥山お父さんは老眼対策であるモノビジョンにしました。左眼は1.0となり遠方を見て、右眼は0.05で読書を楽しんでいます。息子さんは右1.2、左1.0になりました。



友達に「裸眼でも見える？」 と驚かれました！

芳陸 青空さん（女性・オペ時16歳）

- オペ日 2011年8月9日
- オペ後の視力
右0.05→1.5 左0.05→1.2

小学5年の春、健康診断の視力検査は、いつもより少し見えづらかったので勘で「右、左」と答えました。そして結果は、今までのA判定からCに下がり、再検査の通知が同封されていました。ショックで両親にその結果を見せることができたのは、それから1週間も経ってのことでした。その後、父と一緒に奥ノ山医院に行きました。このままだと身長が伸びるのにつれて眼軸も伸び、もっと視力が低下してしまうので小学6年生になったら眼軸の伸びを遅らせる手術を受けることになりました。

その1,2週間後から眼鏡での生活が始まると、学校にかけていくのを忘れたり、マスクで曇ったり、不便な毎日が続きました。小学6年生の夏に手術することが決まりホッとする反面「痛いのかな？手術中に何か起きたらどうしよう」と不安が募りました。しかし、何のトラブルもなく、無事手術は成功しました。術後の1週間は痛かったのですが、だんだん痛みも引き、背が伸びても視力はあまり変わりませんでした。

そして、高校1年生の夏に念願のフラップレス・レーシック手術を受けました。先生からは何度も説明を受け、メンタルケアまでしていただきました。それでも手術前日は不安になりました。術後もしも合併症を引き起こしたり、見えるようにならなかつたら考えると、とても怖くなりましたが、先生を信じて手術に臨みました。手術後は眼を開けると涙が勝手に出てきて、目薬を差すのも大変でした。私が痛がるので、先生はクリームを入れてくださり痛みを和らげてくださいました。徐々に見えるようになり、テレビを眼鏡なしで見ている時は夢のようでした。

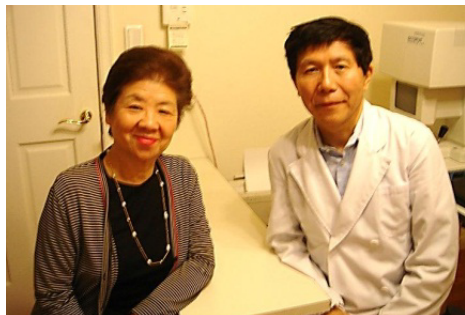
2学期が始まると友達から「あれ？メガネは？」とロクに聞かれ、「裸眼で見えるんだ」と言うので「えー!!」と驚かれ、廊下で見かけた友達に手を振ると「青ちゃん、見えるの!!」と言われました。今まで友達が私の眼鏡をかける時「度が強いね」と言われ続けていたのに、皆より見えるようになりました！

あの時の喜びで、術後の痛みは吹き飛びました！先生は私の年が小さいので大変気を遣われ、少しでも痛みを和らげようと処置してくださり感謝しています。ここまで見えるようになったのは奥山先生のお陰です。術後もずっと経過を見てくださり、とても安心できます。本当にありがとうございます。



■院長奥山女士
親子2代の患者さんです。お父さんが-13Dという最強強度近視の治療済みだったので、お嬢さんは近視の進行を予防するSP手術を受けていました。10年が過ぎ、眼の奥行きの伸びも26mmまでに止まりました。今回フラップレス・レーシックで見事右1.2、左1.0になりました。親子と私を含め3人の協力で、20年来の努力が実を結びました。

NPO法人 全国商店街おかみさん会理事長 富永照子さんが当院で老眼遠視手術を受けました！



今では映画の字幕が
ハッキリ見えて快適です！

富永 照子さん
(女性・オペ時74歳)

■オペ日 右2011年5月24日
左2011年10月11日
■オペ後の視力(近見)
右0.1→0.4 左0.1→0.4

■富永照子さん 昭和12年(1937年)東京浅草生まれ。浅草仲見世老舗手打ちそば「十和田」の四代目女将。40年以上にわたり、浅草のまちづくりに関する活動や提言を続けている。浅草サンパカーニバルや浅草ニューオリンズ・ジャズフェスティバル等の仕掛け人である。

私は浅草の「十和田」というお店で女将をしています。地元でも有名なお店で多くの人に知られています。私が外を歩いていると、よく挨拶をされますが、近くがよく見えず気付かないで通り過ぎてしまうことが多々ありました。そのせいで、私は全くその気はないのですが、偉そうにしているのと取られてしまうことがあるのです。一日中、眼鏡をかけているのは大変で、付けたり外したりするのも煩わしく不便に感じていました。また家でテレビを見ていて、つい眼鏡をかけたまま寝てしまい、ベッドの上に置いてあるのに気づかず踏んで壊してしまっただけでもありました。なんとか眼鏡のない生活をしたいと思い、遠視手術に詳しい奥山を探していました。

私はジャズが好きで、ハワイやアメリカのニューオーリンズに時々旅行に行きます。アメリカに遠視手術がありますが、英語が話せるわけでもなく、費用や術後のケアにおいて不安な面があり、できれば日本で受けたいと思っていました。そんな折、懇意にしている眼科の先生から、遠視や近視の手術に詳しい奥山先生を紹介していただきました。

奥山先生は、いつもにこにこしていて、穏やかで慎重なお人柄と見受けました。色々な検査を受け、相談したところ手術が可能ということなので決心しました。先生は「手術はまず右目をし、様子を見てから気に入れば左目もしましょう」とおっしゃるので、この先生ならば自分の目を任せても良いと思いました。先生の亡くなられたお母様も左目の遠視、老眼手術を受けていられたことを知り、さらに安心しました。

手術は短時間で終わり、痛みもほとんど感じませんでした。奥山先生は「富永さんが術後の痛みを感じないのは肝が据わっているか常日頃の行いが良いからでしょう」と褒めてくださったのが嬉しかったです。術後半年ほど経ちましたが、今では映画の字幕まではっきり見えるようになり快適な日常を送っております。奥山先生、本当にありがとうございました。

■院長奥山から 浅草出身のおかみさんです。浅草商店街が震災のあおりで、閑古鳥が鳴いていたのをスカイツリーを中心に見事に活況を呈する街に盛り上げました。東日本各地のおかみさんの応援に走り回っています。



フラップレス・ レーシックだから 再手術が できます!

再手術と聞くと「一度、近視手術をしたのに、また近視が戻ってしまうのですか?」と質問する方がいるかもしれませんが、しかし、視力は年齢と共に変化するものです。眼鏡を作り直したり、コンタクトの度数も変更したことを思い出してください。

角膜にメスを入れる術式のレーシックの再手術は角膜を再度傷つけるため多くの負荷がかかります。一方、フラップレス・レーシックは角膜上皮の再生を待って、6カ月程度時間を置けば複数回の手術が可能です。一回の手術で角膜を削る量には限度がありますが、複数回できるので強度や最強度近視の方にも矯正施術を受けていただくことができます。費用は使用するガス代のみで、視力に応じ5万～10万となります。一度手術を受けられた方もご相談下さい。

当院で再手術を受けたK.Fさん(62歳)の体験談

私が初めて近視手術を受けたのは25年前です。強い近視を何とか直したいと、夢の様な期待を抱いて、モスクワのフィodorof研究所の眼科病院で近視手術を受けました。その前年に、日本人医師として初めて奥山先生がモスクワでフィodorof教授に近視手術を受けたことを知り、いつか必ず自分も手術を受けようと心に決めていました。フィodorof研究所の眼科病院のベルトコンベア一式手術室は圧巻でした。日に100例に及ぶ近視手術の患者さんが要らなくなったメガネやコンタクトレンズを病院に捨てて帰る姿を見て、様々な不安が吹き飛び、はるばる日本から来て良かったと思いました。それは無事手術を終え成田空港に降り、遠くの景色がくっきり見えた時、より強い実感となりました。

そして、人生2度目の近視手術は2012年2月です。近視の戻りがあり、当時の感動を再びと思い、奥山先生を訪ね再手術をお願いしました。奥山先生は、私の年齢から老眼を心配され、「右目のみ再手術をし、左目で近くが見えるよう近視は残しておきましょう」と言われました。今、再手術後1カ月ですが、右1.0左0.4で快適な毎日です。満足のいくメンテナンスが受けられました。

奥の山医院(旧 参宮橋アイクリニック) 来院のご予約方法

完全予約制 予約電話: 03-3411-0005

■受付時間: 月～土(午前)9:30～11:30
(午後)13:30～17:30

■住所: 東京都世田谷区下馬2-21-26

■交通手段

電車 東急田園都市線 三軒茶屋駅(南口出口より徒歩7分)

東急世田谷線 三軒茶屋駅(徒歩14分)

バス 東急バス・小田急バス・三軒茶屋駅(徒歩12分)

HP <http://www.sangubashi.com/>



ホームページが新しくなりました。
最新情報を定期的に更新いたします。ぜひご覧ください。

